

1. 今年の天候と生育概況

本年は、5月の気象状況が平年と比べ低温寡照で推移した事から、移植後の活着が悪く生育が停滞した状態が続いた事もあり分けつが進まず茎数が少ない状況でした。特に、「水のつけっぱなし」のほ場では、藻類の発生により地温が上がらず、酸素不足による還元障害の影響から根の伸長が悪く新根の発生量が少くないところでは、苗が溶けてしまった箇所も見受けられました。6月に入り気温の上昇とともに日照時間が平年よりも多くなった事から生育も徐々に回復してきましたが、移植日やほ場の条件によって生育の差が大きくなっています。

今後の生育については、品質や収量に影響を与える重要な生育ステージに入りますので、天候や生育状況に合わせて適正な管理に努めましょう。

2. 穂肥施肥基準

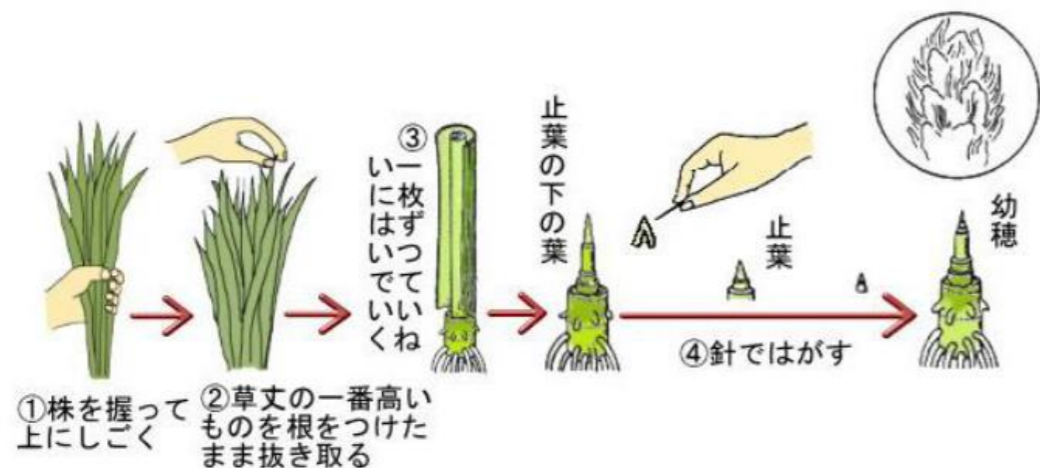
基肥に基肥一発タイプの肥料を使用した時は、穂肥は施用しない。

≪移植基準日 みずかがみ・秋の詩・滋賀羽二重糯は4月29日植 コシヒカリ・日本晴は5月2日植 キヌヒカリは5月15日植を基準としています。≫

品種名	出穂予測	葉色	幼穂長	穂肥時期	使用した基肥が	1回目の穂肥と施用量(kg/10a)	2回目の穂肥と施用量(kg/10a)	その他注意事項
1 みずかがみ 環境こだわり	7月22日 ～24日	4.0	1ミリ	6月27日～29日 出穂25日前	フレーバーペースト734 の時、	滋賀こだわりハーフコート306 36kg		
					ハーフゆうき の時、	滋賀こだわりハーフコート306 30kg		
2 コシヒカリ 環境こだわり	7月26日 ～31日	3.5	10ミリ	7月8日～12日 出穂18日前	ハーフゆうき の時、	滋賀こだわりハーフコート306 36kg		
					有機アグレット844 の時、	まかせな彩(穂肥) 18kg		
3 キヌヒカリ 環境こだわり	7月28日 ～8月1日	4.0	1ミリ	7月3日～6日 出穂25日前	ハーフゆうき の時、	滋賀こだわりハーフコート306 30kg		
					有機アグレット844 の時、	まかせな彩(穂肥) 18kg		
					フレーバーペースト734 の時、	滋賀こだわりハーフコート306 36kg		
4 コシヒカリ	7月26日 ～31日	3.5	10ミリ	7月8日～12日 出穂18日前	まかせな彩(基肥) の時、	まかせな彩(穂肥) 20kg	1回目から2週間後に 化成肥料201 10kg	倒伏の心配がある場合は、 ・ロミカ粒剤(出穂25～10日前、10aあたり2～3kg) ・ビビフル粉剤DL(出穂10～5日前、10aあたり3～4kg)
					Lペースト588 の時、	又は 化成肥料201 20kg		
5 キヌヒカリ	7月28日 ～8月1日	4.0	1ミリ	7月3日～6日 出穂25日前	まかせな彩(基肥) の時、	まかせな彩(穂肥) 25kg	1回目から1週間後に 化成肥料201 10kg	
						又は 化成肥料201 20kg		
6 日本晴	8月7日 ～9日	4.0	1ミリ	7月13日～15日 出穂25日前	まかせな彩(基肥) の時、	まかせな彩(穂肥) 30kg	1回目から1週間後に 化成肥料201 10kg	
					Lペースト588 の時、	1回目 化成肥料201 20kg		
7 秋の詩	8月9日 ～12日	4.0	1ミリ	7月15日～18日 出穂25日前	まかせな彩(基肥) の時、	まかせな彩(穂肥) 30kg	1回目から1週間後に 化成肥料201 10kg	
					Lペースト588 の時、	又は 化成肥料201 20kg		
8 滋賀羽二重糯	8月15日 ～20日	3.5	10ミリ	7月28日～8月2日 出穂18日前	まかせな彩(基肥) の時、	1回目化成肥料201 15kg/1回目から1週間後に化成肥料201 10kg		倒伏の心配がある場合は、 ・ロミカ粒剤(出穂25～10日前、10aあたり2～3kg) ・ビビフル粉剤DL(出穂10～5日前、10aあたり3～4kg)
					Lペースト588 の時、	実肥(走り穂が出た時)に化成肥料201 10kg 出穂後から収穫までの期間に肥え切れすると稔実歩合の低下を招くため、実肥を施肥する。(やりすぎ注意)		

- ① 穂肥の施用は、必ず幼穂の長さを確認しましょう。コシヒカリ・滋賀羽二重糯で10ミリ(出穂18日前)、みずかがみ・キヌヒカリ・秋の詩等で1ミリ(出穂25日前)を確認する。
- ② カラースケールにより葉色を確認する。コシヒカリ・滋賀羽二重糯で3.5、みずかがみ・キヌヒカリ・日本晴・秋の詩等で4.0 葉色が極端に濃い場合は、1回目の穂肥を遅らせ減量しましょう。
- ③ 尻水戸をしっかりと止めて水を張った状態で施用し、かけ流しはしない。
- ④ 過剰な施肥は、倒伏や病害を誘発するので、注意しましょう。(特に環境こだわり栽培については、化学窒素肥料の制限があるので、施肥量は厳守)

<幼穂の見方>



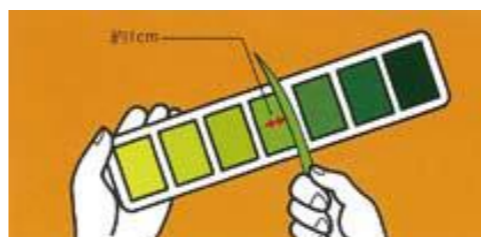
☒ 幼穂の観察の仕方

<葉色カラースケールでの葉色の味方>

葉色カラースケールの使用方法については、単葉測定法と群葉測定法の2種類があります

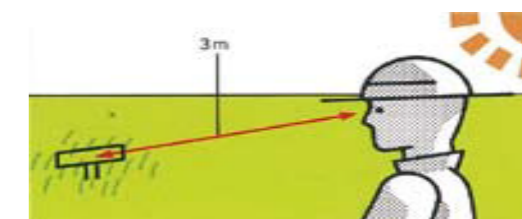
◎単葉測定法

- ①完全展開葉の上から数えて2～3枚目の葉を選びます。
- ②版から1cm位はなし葉の中央部の色と葉色版の色を合わせ測定する。
- ③圃場全体の平均を得るために数ヶ所測定を行い平均的な測定値で判断する。



◎群葉測定法

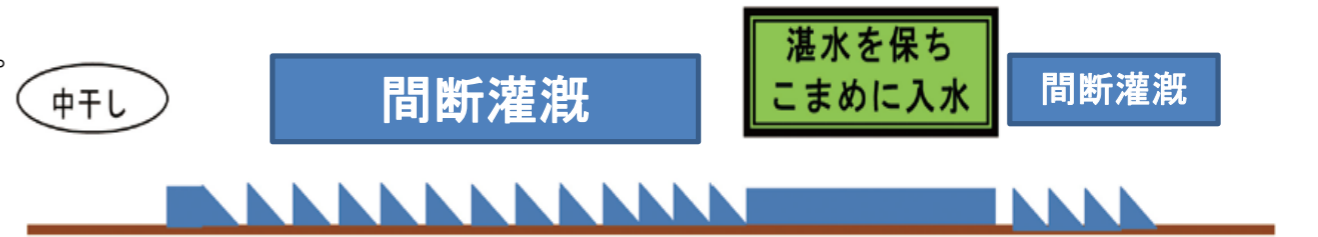
- ①天気の良い午前中に太陽を背にして葉色カラースケールから3m程度離れて測定する。
- ②圃場全体の平均を得るために数ヶ所測定を行い平均的な測定値で判断する。



3. 水管理(根を守る管理)

梅雨明け後は、稲作期間中で最も高温になる時期で、根の活力が低下しやすい状態になり水を張り続けると根痛みを起こします。また、出穂前後は、稲の葉からの蒸散量が最も多い時期となり水不足になると稲が衰弱し、幼穂や開花に影響を与えますので、今後の水管理については、下記の事に十分注意しましょう。

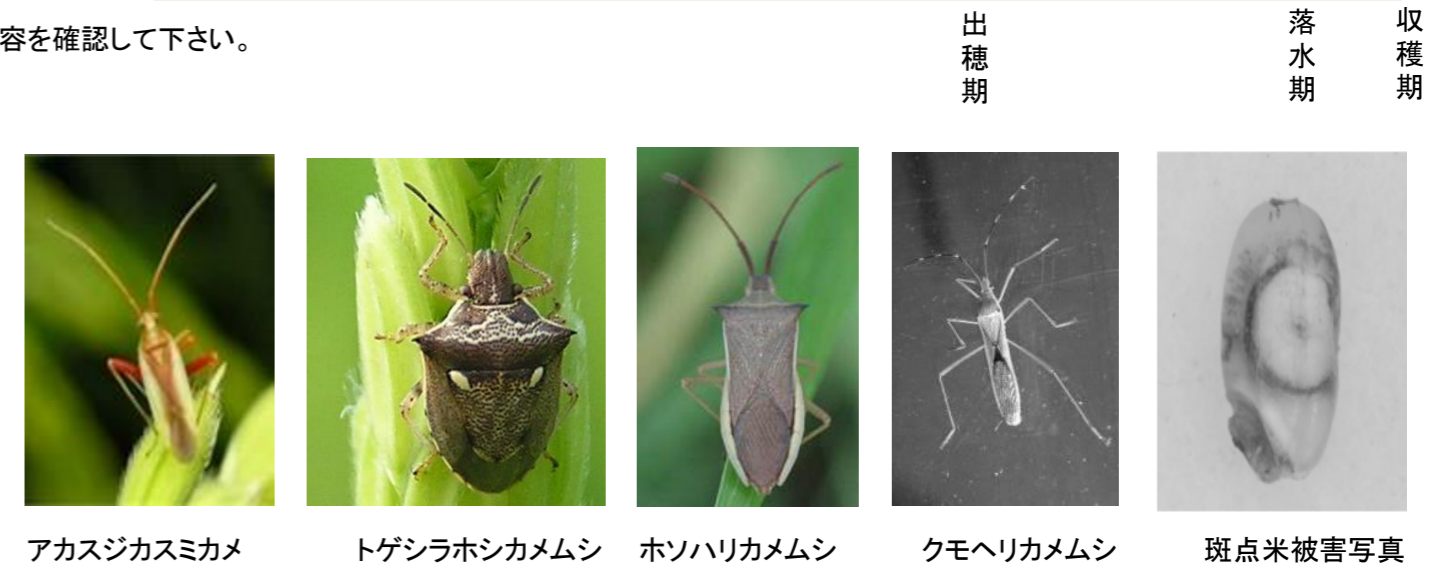
- ①中干以降は、間断灌溉にし酸素と水の供給を交互に行いながら、根の発育を促し、活力を維持しながらうわ根をしっかりと張らしましょう。
- ②穂ばらみ期～開花期にかけては、水不足にならないように注意し、湛水を保ちこまめな入水に努め乾かし過ぎないようにします。
- ③開花期以降は、再度間断灌溉に努め、根の老化と下葉の枯れあがりを防ぎ登熟の向上に努めましょう。
- ④刈取前の落水は、できる限り辛抱し、登熟の向上と立毛胴割れ防止に努めましょう。



4. 病虫害防除(早期発見・早期防除) 記載の農薬は、令和3年6月28日現在のものを使用しています。使用の際はラベルの内容を確認して下さい。

水稲病虫害共同防除基準

防除時期	対象品種	環境こだわりみずかがみ	コシヒカリ	日本晴	滋賀羽二重糯
			キヌヒカリ	秋の詩	
7月8日(木)～7月11日(日)		フジワン粒剤(成分1) (いもち病)			
7月15日(木)～7月18日(日)		アルバリン粒剤(成分1) (カメムシ・ウンカ)	フジワン粒剤(成分1) (いもち病)		
7月24日(土)～7月27日(火)			アルバリン粒剤(成分1) (カメムシ・ウンカ)	フジワン粒剤(成分1) (いもち病)	
7月30日(金)～8月2日(月)					フジワン粒剤(成分1) (いもち病)
8月7日(土)～8月10日(火)			アルバリン粒剤(成分1) (カメムシ・ウンカ)		アルバリン粒剤(成分1) (カメムシ・ウンカ)



①共同一斉防除

- ・共同一斉防除は決められた日に行いましょう。
- ・風向き及び周辺の状況に注意して散布しましょう。
- ・マスク、手袋を使用しましょう。

②いもち病

- ・茎数が多く過繁茂なほ場や、朝露などで露の落ちにくいほ場、前作で「いもち病」が発生したほ場では、特に発生に注意しましょう。
- ・発生を認められた場合、ブラシン粉剤DL(成分数2 収穫7日前まで)を散布しましょう。環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。

③紋枯病

- ・最高分けつ期から出穂期頃に、下部の葉が枯れあがる。出穂期以降は上部も枯れあがります。キヌヒカリ、みずかがみなどに比較的発生が多い。
- ・昨年発生したほ場では、リンパー粒剤(成分数1 収穫30日前まで)を散布しましょう。
- ・発生が認められた場合、バリダシン粉剤DL(成分数1 収穫14日前まで)を散布しましょう。環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。

④カメムシ類

- ・カメムシ類の吸汁による斑点米は、下位等級格付けの原因になります。
- ・斑点米被害の多い地域は、一斉草刈を行うとともに、追加防除を実施しましょう。

■一斉草刈 1回目 7月中旬 7月10日(土)～11日(日)ごろ 2回目 8月上旬 7月31日(土)～1日(日)ごろ

■ほ場内のヒエ抜きは、7月上旬までに終わらしましょう。

■追加防除 MRジョーカー粉剤DL(成分数1)出穂10日～20日後に散布しましょう(10aあたり3～4kg)。ただし、収穫7日前まで 環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。



いもち病の病斑



紋枯病の病斑

5. トレサビの記帳

- ①共同一斉防除が終了すれば、一連の作業が終了しますので、トレサビの記入内容を確認し提出に備えましょう。なお、JAへの提出期限は8月13日になりますが、日本晴など防除が遅くなる場合は、見込みの実施日を記載いただきご提出下さい。

6. 環境こだわり農産物基準(水稲)

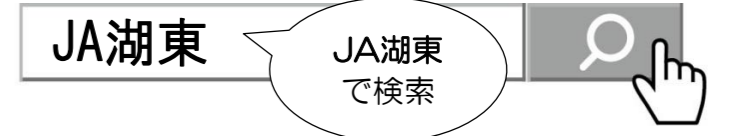
- ①土づくりの励行
 - ②化学合成農薬成分数 7成分まで
 - ③化学窒素肥料使用量 4kg/10aまで
- その他、環境保全型農業直接支払交付金制度には、別途要件がありますので、ご注意願います。

■お問い合わせ■

湖東地区	愛東地区
本所 営農販売課(指導担当)	営農販売課愛東駐在(指導担当)
NTT 0749-45-1111(直通)	NTT 0749-46-0076
IP 0505-801-0551(代表)	IP 0505-802-3576

※本所営農指導担当直通電話が開設されました。

営農情報は、公式ホームページでも発信しています。



<https://www.ja-koto.or.jp/>

または、スマートフォンからQRコードでチェックしてください。

